

平成26年度継続課題に係る継続評価書(平成24年度までの採択課題向け)

- 研究機関 : 富士通(株)、沖電気工業(株)、日本大学、北陸先端科学技術大学院大学
- 研究開発課題 : 先進的ICT国際標準化推進事業(スマートコミュニティにおけるエネルギーマネジメント通信技術)
- 研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度
- 代表研究責任者 : 高橋 英一郎

- 総合評価 : 適(適/条件付き適/不適の3段階評価)
(評価点 18点/25点中)

(総論)

計画どおりの成果に加え、標準化について計画以上に進んでいる点が評価できる。

研究期間最終年度となる来年度の実施計画も、予算計画を含め着実なものとなっており、計画どおりに研究を進めることを期待する。

(コメント)

- 研究開発の目標達成状況等については、当初の計画どおり、適切に進められている。
- さらに、アーキテクチャの標準化、6LowPAN の共通プロファイルなどにおいて計画以上の成果があり、評価できる。
- 論文発表等、適切な成果の発表を期待する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

課題に対して適切に対応しており、また、標準化について計画以上の進捗となっている点が評価できる。

(コメント)

- 課題への丁寧な対応は評価される。
- 計画通りの成果に加え、アーキテクチャの標準化、6LowPANの共通プロファイルなどにおいて計画以上の成果がある。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

予算計画書どおりであり、妥当である。

(コメント)

- 妥当と判断する。
- 予算計画書どおりであり、問題点は見当たらない。

(3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

確実な計画となっており、また、平成26年度の研究期間満了に向けて当初の計画に加えた標準の取組を順調に進めている点も評価できる。

(コメント)

- 妥当である。論文発表も含め、前倒し気味に進めて遅れないことを期待する。
- 確実な計画となっており、また、平成26年度の研究期間満了に向けて、当初の計画に加えた標準化の取組を順調に進めている点も評価できる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

前年度までの実績に基づいた妥当な計画である。

(コメント)

- 妥当である。
- 前年度までの実績に基づいた妥当な計画である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

前年度に引き続き、適切な実施体制となっており、互いの研究成果を効率的に活用している点が評価できる。

(コメント)

- 充実した体制であり、互いの研究成果を効率的に活用している点が評価できる
- 適切な実施体制が前年度に引き続き組まれている。